

石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群



石貫穴観音横穴

種 別：史跡

所 在 地：熊本県玉名市石貫字安世寺

指定年月日：大正10年3月3日



石貫穴観音横穴 1～3号基



石貫ナギノ横穴群

種 別：史跡

所 在 地：熊本県玉名市石貫字柳野原

指定年月日：大正10年3月3日



石貫ナギノ横穴群 6～10号基

1. 遺跡の概要

石貫穴観音横穴及び石貫ナギノ横穴群は、菊池川支流の繁根木川右岸に所在する、装飾のある横穴墓群です。南北に細長い丘陵の西側崖面に石貫穴観音横穴が5基、東側崖面に石貫ナギノ横穴群が48基確認されています。横穴墓入口の飾縁には線刻されているものや、赤色などで彩色されているものがあり、石貫ナギノ横穴群の大刀のレリーフなど多様な装飾が施されています。横穴墓としての規模・内容も優れており、玉名市が全国に誇る史跡です。

横穴墓を含めた装飾古墳については、大正時代に浜田耕作・梅原末治氏によって熊本県下の装飾古墳が調査され、その成果をもとに、大正6年わが国の考古学史上の大きな画期となった、『肥後に於ける装飾ある古墳及び横穴』が京都帝国大学から刊行されました。それからしだいに注目を集めるようになり、石貫穴観音横穴及び石貫ナギノ横穴群は大正10年3月に熊本県下のほか5ヶ所（井寺古墳・千金甲甲古墳・千金甲乙古墳・釜尾古墳・大村横穴群）の装飾古墳と共に国の史跡に指定されました。それ以後次々と装飾古墳が指定されるようになり、日本国内の装飾古墳保護のパイオニアとなった記念すべき史跡です。

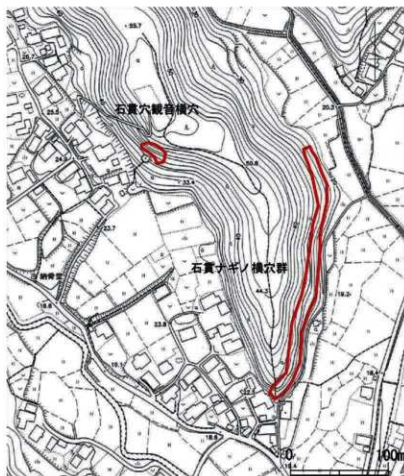


Fig1 石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群位置図

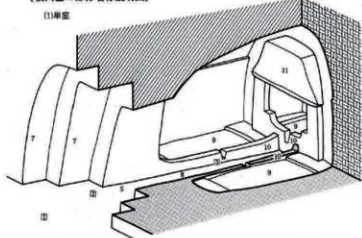
2. 装飾古墳とは？

3世紀中ごろから7世紀中ごろ（約1700年～1300年前）にかけて、土を盛り上げた大きなお墓が全国各地に築かれました。これを古墳といい、この時代を古墳時代と呼んでいます。古墳時代の終わりごろ（6世紀～7世紀にかけて）には、岩などの崖面に穴を掘って遺体を安置する横穴墓が多く造られるようになりました。これら古墳内部の石室や石棺、横穴墓の壁面などに文様や絵画が描かれたり、彫刻されたものを装飾古墳と呼んでいます。

装飾古墳にはさまざまな形態があり、地域ごとに多様な特色があります。装飾が施される場所は、古墳内に収められる石棺の表面や内側、石室の壁面、横穴墓入口の縁や内部の壁面などです。文様の種類には、円文や三角文などの幾何学的図形と、人物や動植物などの象形的図形があり、赤色などで鮮やかに彩色されたり、浮き彫りされるなど多様な表現があります。

装飾には、当時の人々の死生観が表れており、邪悪なものや忌避などの想いが込められていると考えられています。

〔横穴墓の部分名称説明図〕



1. 前庭部 横穴墓入口（前庭前）の広場
2. 羨道 横穴墓の外から玄室に通じる道
3. 玄室 横穴墓の主体となる屍体を安置する部屋。複室（部屋が2室）の横穴墓の場合、奥室・後室・主室と呼ぶこともある。複室（部屋が2室）の横穴墓の場合、入口側にある部屋。
4. 前室 前室や玄室の入口。
5. 羨門 玄室の入口。第二羨門とも呼ぶ。
6. 玄門 羨門の外に造られた階段状の飾り。
7. 羨道 玄室や前室の中央部を貫く道。
8. 屍床 屍体を取る所。
9. 屍床 用途を区切る埠の突帯。
10. 仕切 玄室の奥屍床が彫形に造られたもの。
11. 石室形

Fig2 横穴墓の構造

3. 装飾古墳の発達と展開

装飾古墳がどうやって発生したのかは定かではありませんが、石棺に施された直弧文が始まりとされています。それから日本各地に広がり、それぞれの地で地域色を増しながら個性あふれる装飾古墳へと拡大発展していきました。

全国に装飾古墳は660基ほど確認されており、分布には地域的な偏りがあります。最も多く集中しているのが熊本県であり、現在196基が確認され、全国の約30%を占めています。さらにその熊本県の中でも菊池川流域は多くの装飾古墳が所在し、質・量ともに全国一の装飾古墳分布地域です。

熊本県における装飾古墳の発展は、5世紀前半に位置づけられる県南部の八代市の古墳から始まり、天草や宇土半島へと分布域が拡大し、5世紀後半には熊本県北部、さらに6世紀に入ると菊池川流域に広がりました。時代が下るにつれ装飾の内容も横穴式石室の奥に設けられた石屋形や横穴墓の飾縁及び内部に彩色されるなど、バリエーション豊かになっていきます。

菊池川流域では、県南部の八代・天草地方で装飾古墳が消滅した後の6世紀代になって出現する傾向があります。菊池川下流域では石貫穴観音横穴、石貫ナギノ横穴群、大坊古墳、永安寺西・東古墳、菊池川中流域ではチブサン古墳、弁慶ヶ穴古墳など代表的な装飾古墳が築かれました。石室内部や横穴墓の飾縁に円文、連続三角文が赤などで鮮やかに描かれているのがこの地域の特徴です。また、朝鮮半島の百濟産と推定される大坊古墳出土の金製耳飾りや、永安寺東古墳に描かれた船や馬の文様から、朝鮮半島及び大陸との交流も窺えます。

石貫ナギノ横穴群が造営される時期は、須恵器などの遺物がなく特定は困難ですが、横穴墓内部の石屋形の形状などから6世紀初めから終わりごろにかけてと推定されています。石貫ナギノ横穴8号墓が古い段階、43号墓が新しい段階に位置付けられています。石貫穴観音横穴も、2号墓の形態などから6世紀中ごろに位置付けられています。

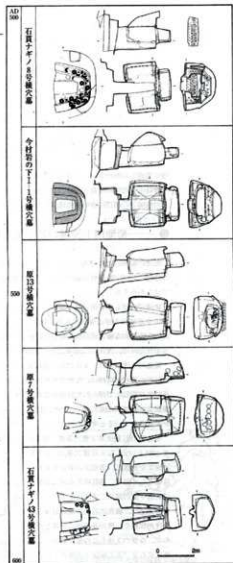


Fig.3 菊池川下流域の装飾横穴墓の変遷

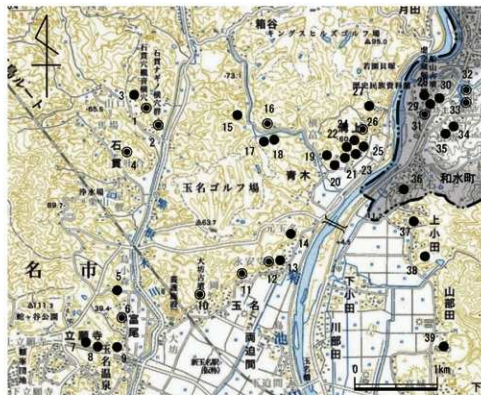


Fig.4 菊池川下流域の主要な古墳・横穴墓の分布（二重丸は装飾古墳）

- 1 石貫穴観音横穴
- 2 石貫ナギノ横穴群
- 3 大平寺横穴群
- 4 石貫古城横穴群
- 5 富尾浦谷横穴群
- 6 富尾横穴群
- 7 大塚古墳
- 8 小塚古墳
- 9 冷水横穴群
- 10 大坊古墳
- 11 永安寺東・西古墳
- 12 馬出古墳
- 13 小路古墳
- 14 元玉名横穴群
- 15 塔ノ尾横穴群
- 16 横島横穴群
- 17 二俣横穴
- 18 六反横穴群
- 19 田代中の塚古墳
- 20 田代阿弥陀塚古墳
- 21 宮ノ後古墳
- 22 赤赤古墳
- 23 前田古墳
- 24 真福寺古墳
- 25 真福寺東古墳
- 26 城迫間横穴群
- 27 水尻横穴群
- 28 京塚遺跡
- 29 虚空蔵古墳
- 30 船山古墳
- 31 塚坊主古墳
- 32 長力横穴群
- 33 北原横穴群
- 34 松坂横穴群
- 35 松坂古墳
- 36 椿山古墳
- 37 部田古墳
- 38 徳丸古墳群
- 39 山下古墳

4. 遺跡周辺の歴史的環境

石貫穴観音横穴及び石貫ナギノ横穴群は、古墳時代に築造されて以後、周辺は寺院及び神社となっていました。丘陵上には、後田古墳がありましたが、丘陵全体が後世に地形の改変を受けており、墳丘などの内容はよくわかっていません。

石貫穴観音横穴のふもとには、寛正2年(1461)臨済宗の寺院である安世寺が開かれました。菊池氏一族の藤原為安が、菊池の臨済宗正観寺第十五笑耘和尚を招いて創建したと伝えられています。現在寺院はなくなっていますが、周辺には五輪塔群などが残っています。

両横穴群の丘陵上には、石貫熊野座神社がありましたが、昭和初期に火災に遭い紫根木川左岸に移築されました。寺社がなくなっても、地元の人々によって横穴と周辺の清掃・保全がなされ、大切に保存されています。



石貫穴観音横穴と拝殿



安世寺跡の石塔群



石貫ナギノ横穴群1号~11号墓前付近



石貫ナギノ横穴群25~28号墓付近

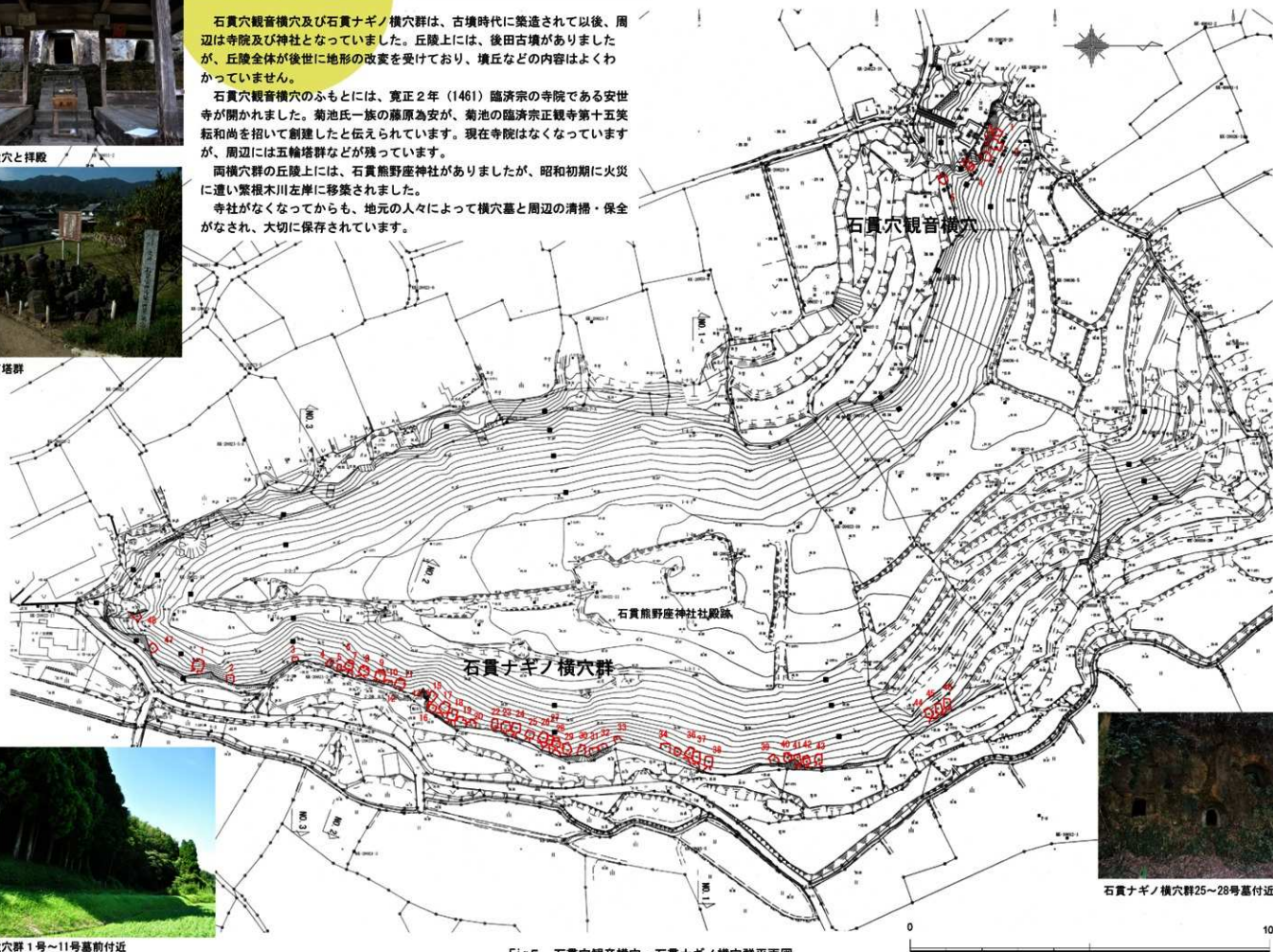


Fig5 石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群平面図

5. 石貫穴観音横穴

繁根木川右岸の丘陵西側に所在し、3基が並んで築かれ、北東にやや離れて1基、さらに下方に1基の計5基が確認されています。西側から1号墓とされ、並んだ1～3号墓に裝飾があります。1号墓は飾縁に赤と白の円文、2号墓は飾縁に赤の円文と内部奥壁に千手観音象、3号墓は赤の彩色が施されています。2号墓が位置的、構成的に中心を成し、規模も大きく飾縁の幅約2.6m、高さ約2.3m、入口から玄室の奥壁まで約3.7mを測ります。扉床上部の底には軒丸瓦状の円形突起が設けられていることも特徴的です。横穴墓の形態などから6世紀中ごろの築造と考えられており、千手観音象に関しては、諸説があり年代特定は困難な状況ですが、作風などから平安時代ごろの作と推定されています。横穴正面には拝殿が設置され、古くから信仰の対象となっています。



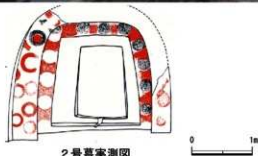
2号墓



2号墓内部



2号墓内部扉床上部の底



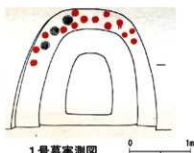
2号墓実測図



2号墓奥壁の千手観音像と十一面観音像



1号墓飾縁



1号墓実測図



6. 石貫ナギノ横穴群

紫根木川右岸の丘陵東側に所在し、凝灰岩の崖面に南北約250mにわたって48基の横穴が確認されています。横穴群は位置などでいくつかのグループに区分され、部分的に崩落しているところもあることから、埋没しているものも多いと推定されます。横穴群の中で6号墓と8号墓の彩色が最も保存状態が良く、飾縁に同心円文などが描かれています。また、8号墓内部の石屋形には同心円文と連続三角文が線刻され、石屋形と側壁の間に大刀が浮き彫りされているなど、多様な装飾があります。



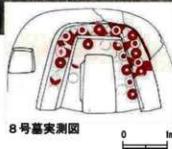
2号墓実測図 0 1m



6号墓



8号墓



8号墓実測図 0 1m



8号墓内部の石屋形



左側から44号号~46号墓



37号墓



37号墓実測図 0 1m

7. 遺跡の評価と今後の計画

石貫六観音横穴及び石貫ナギノ横穴群の価値は、横穴墓としての規模及び内容が優れていること、装飾されていること、また大正10年国指定という文化財保護における歴史上においても重要な位置づけであることなど多方面の視点から評価されます。これらの観点から、横穴墓として日本国内を代表する史跡であり、貴重な文化財です。

玉名市では、重要な遺跡を保存・活用するため、順次古墳の整備事業を実施しており、石貫六観音横穴及び石貫ナギノ横穴群についても玉名市文化財総合整備計画に沿って実施する予定です。これら文化財を適切に保護・管理することで、学術研究や生涯学習の場としての活用を目指します。

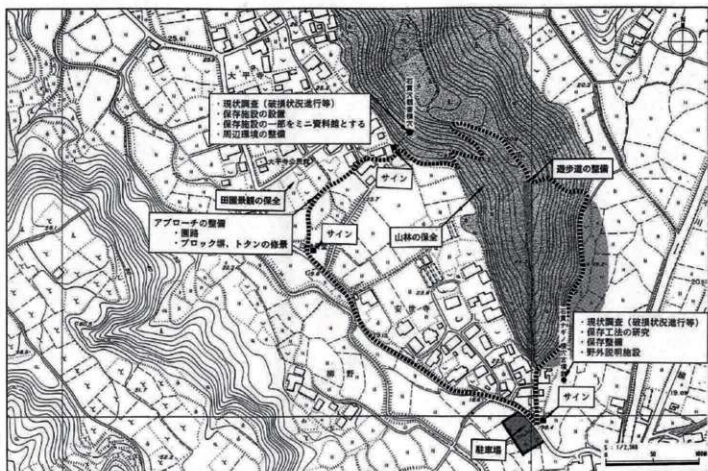
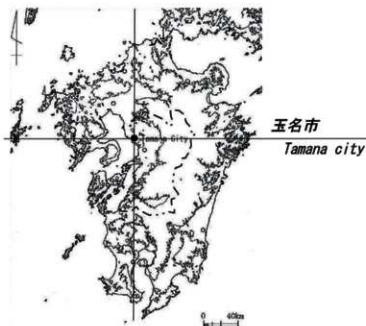


fig7 整備イメージ図（平成26年策定「玉名市文化財総合計画」より）



1. この資料を作成するにあたっては、以下の図書等を参考にしました。

- ※1 高木正文編 1984『熊本県装飾古墳総合調査報告書』熊本県文化財調査報告書第68集
 - ※2 白石太一郎ほか 1999『国立歴史民俗博物館報告第80集 装飾古墳の世界』
 - ※3 『熊本県立装飾古墳館ガイドブック』（館内パンフレット）
2. 挿図の典拠に関しては、Fig2と各横穴墓の実測図は上記の※1、Fig3とFig4は※2から転載しました。Fig1、Fig5、Fig6は玉名市教育委員会で作成しました。

3. 本書に掲載した写真の著作権は玉名市教育委員会に帰属します。二次利用に関しては、出所を明示した上で利用できます。

〈編集・製作〉

玉名市教育委員会
文化課文化財係（平成23年2月作成）
熊本県玉名市岩崎163
TEL:0968-75-1136 FAX:0968-75-1138
玉名市HP: <https://www.city.tamana.lg.jp/>

